

平成26年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

今年度の全国学力学習状況調査は、平成25年度に引き続き全数調査（すべての小学6年生、中学3年生を対象）として、4月22日に実施されました。本町では、この調査結果を基に子どもたちの学力や学習・生活習慣の把握、分析を進めてまいりました。

今回、その結果の概要を町民の皆様にお示しし、より一層、学校・家庭・地域と連携した取り組みを推進するとともに、教育施策の充実を図り、各学校の教育活動の改善・充実に向けた取り組みを強化してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できる学力は特定の一部であり、児童生徒の学力の全てでないことをご理解ください。（生涯学習課学校教育グループ）

1. 調査の目的

- ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立して学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的とする。

2. 調査期日 平成26年4月22日（火）

3. 調査の内容

- ・対象学年 : 小学校第6学年、中学校第3学年

・教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 (国語A、算数・数学A)	主として「活用」に関する問題 (国語B、算数・数学B)
身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などを中心とした出題

・生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4. 参加状況 参加学校及び児童生徒数（小学校：2校 37人、中学校：2校 34人）

5. 調査結果の概要

- ・全体的な傾向：平成24年度から教育委員会では、平成26年度までに全国の平均正答率を超えることを目標に据え、学校と連携を深め学力向上に向けた取り組みを進めてきました。「1.1. 各校の学力向上の取り組み」に見られるような学校の取組と保護者のご理解・ご協力を得て、今年度も小学校、中学校ともに、国語、算数・数学のA及びB問題で全国の平均正答率を上回るか、ほぼ同等の結果を得ることができました。

<小学校>

国語、算数のA問題、B問題ともに平均正答率で全国を上回りました。基礎基本の定着が見られると共に、興味・関心を問う問題や記述を求める問題等に改善が見られました。しかし、国語では、普段接することの少ない故事成語の意味を理解した使い方や複数の素材を関連づけて考えたりする問題、算数の作図、規準量や割合を問う問題、情報の整理・選択・判断とその根拠の説明などでは課題が見られました。

<中学校>

国語、数学のA問題、B問題ともに平均正答率でほぼ全国と同等の結果を得ることができました。小学校同様、基礎基本への着実な定着が見られました。しかし、国語では決められた字数内に自分の考えをまとめること、数学の事象と式の関係を数学的に説明する問題等では課題が見られました。

7. 学力状況の概略

(1) 国語

<小学校>

良かった点：漢字の読み書き、文章から必要な事柄を読み取ること、辞書の活用等、基礎基本の定着が見られた。

課題：目的に応じ、必要な内容を書き加えたり故事成語を引用したり、複数の内容から自分の考えをまとめて書くこと。

<中学校>

良かった点：文脈に即して漢字を読んだり、使ったりする。物事の特徴を捉えて自分の考えを書くなど基礎基本の定着が見られた。

課題：成句の引用、複数の資料を比較して読み、要旨をとらえたり、必要な情報を選択したりして活用することなど。

【さらに子どもたちの力を伸ばすために】

- ・自分の考えをまとめて書く力や複数の資料から必要な情報を選び出し活用する力をつけるため、日頃から本や新聞等を読んだり、テレビのニュースなどにも関心を持たせたりして下さい。家庭でも最近のニュースを話題としてお子様の考えを聞いてあげたりして下さい。
- ・使える言葉を増やすために、生活の中でもわからない言葉に出会った時は、辞書で調べたりさせることが大切です。

(2) 算数・数学

<小学校>

良かった点：四則計算や、式の意味理解と数量関係を簡単な式で表す、図形を構成する要素をとらえるなどの基礎基本の定着が見られた。

課題：単位量当たりの大きさを求めたり、様々な事象から必要な情報を読み取り、式で表したり、説明を記述すること。

<中学校>

良かった点：四則計算や、関数の意味、方程式の解き方をはじめとする基礎基本の定着が見られた。

課題：証明問題のように与えられた複数の条件を活用して説明したり、証明の途中で得られた情報等を活用することなど。

【さらに子どもたちの力を伸ばすために】

- ・算数や数学の授業で学習したことを普通の生活の中で活用（買い物ではgあたりの値段での比較や、車で旅行するときに距離と車の速さから所要時間などをお子様にも考えさせたりする等）させることが大切です。
- ・ご家庭でも算数・数学の教科書に目を通して下さい。小学校の27年度からの教科書では「ほじゅうのもんだい」（2年生以上）が用意され、学校の授業の様子に合わせご家庭で取り組ませることもできるようになっています。

8. 質問紙調査から見る児童生徒の特徴（全国と比べ）

<良かった点>

- ・地域行事への参加、地域の出来事に興味を持っている子が多い。
- ・宿題や予習や復習など家庭学習に積極的に取り組んでいる子が多い。
- ・学校の規則や友達との約束を守る子が多い。

<改善したい点>

- ・「自分には、良いところがあると思える子」が全国よりやや少ない。
- ・友だちの前で自分の考えや意見を発表することがあまり得手でなくやや内向きの子が多い。

9. 質問紙の結果から見た正答率の高い子どもの姿

- ・朝食をしっかりと食べる子
- ・物事に最後まで取り組める子
- ・テレビやビデオ・DVDを長時間見たり、聞いたりしない子
- ・先生や友だちの話をしっかりと聞ける子
- ・予習・復習に取り組む子。特に、復習を頑張る子

小学校：9時迄に寝る子
家で学校の宿題をしっかりとする子

中学校：家の人と話す子
計画的に勉強する子（2～3時間）

10. 今後の取組

学校は、全国学力・学習状況調査や標準学力検査の結果等を分析して「学力向上プラン」を策定し、授業や指導の改善に日々取り組んでいることは、「11. 各校の学力向上の取り組み」に見られます。今回の全国学力学習状況調査では、新学習指導要領の求める授業改善（子ども達がめあてを持って取り組む授業の充実、話し合い活動の充実、図書やインターネットを活用した調べ学習の充実等）に関わった児童質問も多くありました。これらについて本町は、全国よりも高い結果であり、児童生徒を通して着実な学校の授業改善への取組を見とることができました。また、中学校区毎に小中学校が相互に授業参観を行ったり、学習の手引きを交流したりする等、地域の学校が連携した取組も進んできています。

これらの取組が一層推進されるよう教育委員会は下記のように取り組んでいます。

- ①学力の問題は地域全体の問題ととらえ、各学校の代表者をもって学力向上推進委員会を設け、各学校の取組と成果や課題の交流を通し、町内4校の連携した学力づくり等の充実。
- ②学力の向上には教師の指導力の向上が必須と考え、学校の研修への支援、町独自の各種研修会の実施、学力向上に取り組む先進地への視察研修等の充実。
- ③教育サポーターを活用した複数教員による学習指導の充実への支援（1校）、長期休業（夏休み・冬休み）を利用した補充指導への支援。学校図書の充実等読書活動への支援。

さらに、今年度の調査結果から、家庭での規則正しい生活や家庭学習の取組が学力と大きなつながりがあることも見えてきました。学力向上の取組の成果を確かなものとするには、子どもを囲む学校・地域・家庭の三者の一層の連携と協力が必要であると考え、この1月には、三者の連携について考える「厚真町教育フォーラム」の開催を予定しています。今後も皆様のご理解とご支援を得て、児童生徒の一層の学力向上を図ることをめざします。